

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870800505		
法人名	株式会社アビック		
事業所名	エクセレントホームなごみ		
所在地	茨城県龍ヶ崎市川原代町875番地		
自己評価作成日	2020年8月26日	評価結果市町村受理日	2021年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JirgvsvoCd=0870800505-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2020年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会社の理念にある「その人らしさ」を常に考え大切にし、ご利用者様とご家族様とユニット全職員が笑顔で一緒に常に過ごせる施設を目指しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR駅からほど近い集落にありながら、稲刈り後の田んぼで白鷺がエサを啄んでいる様子が見られるような豊かな自然もあり、空間にゆとりをもって建設された平屋の事業所である。法人代表の地元でもあり、地域代表の方々が運営推進会議等で親身に意見を述べてくれるなど、地域との繋がりが感じられる。川に近く、水害の心配は尽きないが、地域包括支援センターの力添えで個別の福祉避難所を確保できたことは1つの安心材料となっている。コロナ禍の中でも、画面越し・網戸越しの面会ができた。敷地内や室内での活動を充実させ、活発に楽しく過ごさせている。職員は『その人らしく』『楽しく笑顔で』生活できるよう、理念に沿った支援を行っている。
*新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、理念の復唱を行い実践に繋がるよう努めている。また、入社時の研修の際には必ず説明をし理解をしてもらうよう努めている	職員は6つの理念を毎朝の申し送り時に声を揃えて復唱しており、胸に刻んで支援にあたっている。管理者は『馴染みの生活を経て今の姿がある』ことを理解して『その人らしさ』を大切にしている。職員も『笑顔であいさつ』『仲良く思いやり』などの理念を大事に『利用者一人ひとりを尊重する』支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの流行前は、城西中学校の職場体験や川原代小学校の地域見学の受け入れがきっかけで来訪などがあり交流があったが、令和2年は感染症対策のため交流中止となっています	事業所のバーベキューや花火、クリスマス会に地域の小学生が参加したり、ボランティア訪問があるなど地域との交流ができていたが、コロナ以降は中止となっている。現在はYouTubeで花火大会やきれいな景色を見たり、一緒に体操する等して、外部とのつながりを持つ工夫をしている。今は交流はできないが、法人代表の住まいが近く、自治会にも加入し、地域に認められた事業所となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設への見学や相談があった際には時間を合わせ十分な時間を取り認知症の人への理解・支援方法を説明しています。また、2か月に1度の推進会議にて地域住民の方へ認知症の人への理解が進む様社内研修の資料等を配布し活動をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではイベント活動、利用者様の様子、研修の報告を行い地域の方やご家族、龍ヶ崎担当者からの貴重な意見をいただきサービス向上に繋がる様に努めている	区長、民生委員、家族、市職員が委員となって2ヶ月に1回開催していたが、現在は文書で実施している。利用者の写真や活動状況、行事計画、職員の勉強計画などを事前に送り、各委員と家族全員に現況や意見を聞き、会議録として作成している。以前の会議では、防災のアドバイスなど、地域からの心配や気付き、意見をいただき、推進会議の意義を感じ、ありがたいと感じている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や避難訓練、施設イベントなどに市役所担当者を招いて参加してもらい、その都度相談や指摘等をして頂き運営に反映しています	電話や市役所に出向き相談ができる良好な関係が構築されている。市主催の水害や新型コロナウイルス関連の講習会が開かれ参加した。利用者の困難事例や災害避難所について、地域包括支援センターに相談し、協力を得た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる行為を理解してもらう為職場内研修を実施し3か月に1度身体的拘束適正化検討委員会を開催しケアの確認を行い全職員に周知できるようにしている	『身体拘束適正化のための指針』を改訂、身体拘束適正化委員会を設置して3ヶ月毎に開催し、議事録を作成している。現在、身体拘束を必要とする方はいない。職員には、入職時の他年1回、勉強会を実施している。管理者は、職員の気持ちに余裕がなくなると虐待に繋がると考え『気持ちに余裕を持たせることができる現場づくり』をめざし工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的・心理的・介護放棄・スピーチロック等の虐待が行われないよう職場内研修を行い職員への理解を深めてもらい防止に努めている。また、入社時に研修を行い新人職員には声掛けの仕方など教育を行い防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内研修を行い権利擁護に対する制度について理解できるように努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご利用者様・ご家族様からの要望や不安、疑問点を尋ね十分に話し合いを行い納得していただき契約の締結・解約を行っている。制度改正や新規加算の算定の際には書面にて説明し同意書を必ず頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来訪時や電話連絡の際、ご利用者様の様子を伝えながら、要望や意見を聞き取り運営に反映している。玄関に意見箱を設置して意見がしやすい環境作りに努めている	アンケートは出来なかったが、運営推進会議を開けない今は、家族全員に電話をかける機会が増え、家族との関係がより近くなって、以前より訪問の機会が増えた家族もいる。こまめに連絡をしており、演歌の曲集を作ってくれたり、差し入れが増えたりと、家族がとても協力的である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議にて意見や提案、相談などを会議しその都度対応し運営に反映させている	ユニット会議と、サブリーダー以上の定例会議を毎月開催し、職員の意見交流を行っている。ストレスチェックを行っている他、管理者等は職員の顔色や様子を見て話しかけるようにしている。布団乾燥機や車いす対応の福祉車両を購入するなど、職員の意見が取り入れられている。職員からは、必要な物は揃えてもらえるし、ケアに対する提案も受け入れてもらえ、モチベーションが上がるとの声を聞くことができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内査定により査定を行い実績に伴った報酬をもらえるように努めている。また、職場条件も柔軟に対応できるよう、午前中のみや午後のみや年齢制限解除を行い70歳以上でも働ける方であれば積極的に採用するよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画をつくり社内研修への充実かを図り認知症の人への理解を深める機会を作れるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の職員および市が運営する「オレンジカフェ」等に参加しネットワーク作りや情報交換などサービス向上に繋がるように努めている。しかし現在はコロナウイルスの影響で自粛せざるを得ない状況になっている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様と積極的にコミュニケーションを図り不安や困り事、要望を会話から汲み取り居心地よく過ごせる環境作り、信頼関係が築ける様に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や思い・困りごとを尋ね、利用者様が安心して過ごせる環境作りを行い面会時や電話連絡の際に様子をお伝えし、ご家族様にも安心して頂けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に、ご本人様・ご家族様と十分に話し合いを行い必要なサービスを見極め提示し確認しながら合意を行うように努めている。他のサービスが必要な際には相談や手配を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の主張・意見を尊重しながら職員は信頼関係を築き、安心した生活を送れる様に心掛けています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在コロナウイルス感染予防の為ご家族様とはガラス越しの面会を実施。職員から普段の様子を伝えガラス越しにてご本人様の表情を見て頂けるよう支援している。定期的に写真付きのお便りに担当者が様子を載せ郵送を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様来訪時ガラス越しでの面会や電話での会話など何時でも連絡が取れるよう支援を行い馴染みの関係が保てるよう支援している	一番の馴染みの関係である家族との面会が制限中であるが、スカイプや電話、網戸越しで話すことができるよう支援している。面会に来られない方には、現在の対策をお知らせしている。テレビCMを見て利用者本人からほしいと要望がでたものがあり、現在家族と相談している。以前は、家族と外出したり、職員と食品や洋服を買いに出かけることもあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の性格や相性を考慮し食堂・リビングで過ごす際には配置を考え職員が間に入り共通の話題を提供し交友関係が築ける様支援している。会話が困難なご利用者様は会話の輪に入れるよう職員が間に入り、寄り添いながら孤独感を感じないように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者様・ご家族様がいつでも気軽に立ち寄れる関係を築ける様心掛けており、以前入居されてた複数のご家族様が「近くに来たから・懐かしくて」と職員に会いに来訪してくださっています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の御本人との関わりの中で日々変化する思いや意向を表情や言動の中で気づきを業務中でも職員が情報共有しご本人様が思うように出来るように努めている	食べたい物のリクエストが多くあり、メニューに取り入れている。コミュニケーションの取れにくい方には、家族から昔の情報を聞いたり、本人の様子をみながら楽しく過ごせるように支援している。水分を多めに摂ることで認知度が改善できたり、血行が良くなるという報道を参考に支援していたところ、表情が出てきたり、しゃべろうとする様子が見られたり、排泄等にも良い影響が出ているとのことである。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書やご家族様から詳しくお聞きした情報をもとに基本情報を作成し入所前に職員全員が情報共有し理解し受け入れ体制を整えている。また、馴染みの暮らしに近づける様ご家族様に馴染みの物を持参して頂き環境作りに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の個々の担当者が生活リズムや表情・行動・言動に気を配り、理解・把握が出来る様に努めている。また、日常的に職員同士がご利用者様の変化や気づきを共有して支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回ミーティングにてモニタリングを実施し担当者作成のケースカンファレンスをもとに意見を出し合い情報共有し今後のチームケア方法を導きだし実践に繋がるようにしている	アセスメントや利用者・家族の意見をもとにプランを作成し、家族には面会時に説明をして同意を得ている。生活リズムパターンシートでプランの実施を記録し、毎月のミーティングにてモニタリングを行い、次の計画に繋げている。記録の重要性と職員の負担軽減を考慮し、ケース記録等の様式について検討の必要性を感じている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が介護日誌やケース記録に目を通し情報共有することで気づきや工夫に繋げている。課題がある際にはご家族様に相談して改善に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で、その時々変化するニーズに対してご本人様の望む生活に近づける様にご家族様と相談しニーズに合わせたサービス提供が出来る様に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナウイルス感染予防のため中止していますが、ボランティアによる訪問や地域行事への参加、施設での行事開催時の地域の人々との交流を行っていました。現在は施設内にて季節を感じて頂けるよう掲示物を季節ごとに利用者様と一緒に作成し年中行事を開催し楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療時、医師に常にご本人様の体調の変化・状況を報告し適切な治療が受けられる様連携しご家族様とも密に連絡し協力が得られる様支援している	訪問診療を受け、変化等があったときには家族に連絡をしている。家族付添いで緊急受診する際には、口頭や書面で状態を伝え、直接医療機関に連絡をすることも。希望者には、訪問歯科による口腔ケア受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との日常の関わりはないが通院の際、処置方法や対応方法などアドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在コロナウイルス感染予防のため面会は出来ないが、以前は面会に出来るだけ行き病院関係者との情報共有が出来るよう努めていました。退院時はご家族様と一緒に現状の状態確認・注意事項、今後のケアについて確認を行い努めていた		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時事業所での可能な対応はご本人様・ご家族様に説明し理解・納得した上で緊急対応を取り交わしています。訪問診療医師との連携を図り現在出来る限りのケアに取り組んでいる	看取りは行っていないことを入居時に説明し、家族の同意を得ているが、職員に対し、看取りの研修会は行っている。食事が摂れないなど重篤な状態になったときには、医師から家族に説明をもらい、対応を協議している。職員からは、馴染んでいるホームで最期まで過ごせるように支援したいという思いと不安が入り混じっていたが、外部の研修を受け、恐がるものではないとの思いに至ってきたとの声が聞けた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し職員が周知徹底すると共に速やかに対応できるように整えている。消防署を招いての普通救命講習はコロナウィルスの為現在見合わせをしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、速やかに避難できる様職員は職場内研修で身に付ける様努めている。緊急時の持ち出し用品や備品は定期的にチェックを行っている。万が一のもらい事故のマニュアルを作成して社内に整備している	火災に対する避難訓練は運営推進会議時に行い、地域の協力も得られている。図上訓練も行っている。一番の心配事である水害については、運営推進会議での意見も参考にしてマニュアルを作成した。昨年、実際に避難を経験し、大きな部屋での避難生活には困難が伴うことを実感。地域包括支援センター長の力添えを得て当事業所専用の福祉避難所を確保することができたことは安心材料であり、家族にも周知した。地震時には、ホームを避難場所として開放することになっている。寒さ対策も含めた備蓄品を用意し、リストも作成済。法人代表や親戚がすぐ近くに住んでいることは、夜勤職員の不安軽減につながっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりの性格を見極め尊重し誇りを損ねない声掛けをするように常に念頭に置き対応している。居室内ではプライバシーが保てる様安心して過ごせる様支援している	利用者は人生の先輩であり、尊厳に配慮した声かけを心掛けている。トイレや入浴で異性介助を嫌う方には、同性が介助している。面会簿は個表とし、写真掲載への同意を得るなど、個人情報保護に配慮した支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様との信頼関係を築き希望や意見が伝えやすい環境作りを心掛けています。希望に添える様自己決定が出来るよう声掛けを行っている。表現が困難なご利用者様に関しては表情や言動からニーズを読み取り支援出来る様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様一人ひとりのペースに合わせた支援を優先して行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を心掛け季節にあった衣類のアドバイスをを行っている。以前はご家族様が行っていた衣替えもコロナウィルス感染予防のためご家族様に衣類を依頼し職員が受け取り衣替えを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるよう口腔体操・メニューの紹介を行い楽しんで頂けるようにしている。施設の畑で収穫した野菜を使いメニュー以外に1品増やしたり、おやつを作ったりして雰囲気作りに心掛けています	1週間毎に利用者の希望を取り入れたメニューを選択。食材業者から冷凍食品が配達される。畑で採れた野菜や近所の方などからのいただき物で1品を追加することもあり、訪問調査当日もナスの惣菜が追加され、職員が「畑のナスよ」と説明をしていた。他の食材は、利用者と一緒に買い出しに行っていたが、現在は感染予防の為、管理者含む3人が担当している。盛り付けや食器洗い等は利用者と一緒にやっている。ドーナツ、ホットケーキ、たこ焼きなど、おやつ作りを楽しんでいる。4月のお花見シーズンの食事作りはとても好評で、そのような機会を増やしていきたいと考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量・水分量を記録し把握し体調異変の際原因が早期に発見できる様支援している。毎日2回の検温・血圧測定、月1回の体重測定により担当医への報告・相談を行い体調管理に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアをご本人様が行える環境作りを整え清潔が保てる様に努めている。また、訪問歯科医師からの口腔機能管理の助言を参考に支援を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し排泄の自立に向けた支援を心掛けています。1日2回のラジオ体操・リハビリ体操・リズム体操などを実施しトイレでの排泄が継続できるよう下肢筋力低下防止や転倒のリスクを防ぐ支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別に排泄誘導を行っている。日中は全員が布パンツやリハビリパンツを使用し、トイレで排泄。夜間のみおむつを使用する方がいる。ポータブルトイレは家具調の安定したものを使用しており、安全に排泄できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1時間に1度のペースで水分提供を行い、便秘解消・予防に努めている。また、1日2回のラジオ体操・リハビリ体操・リズム体操を行い出来るだけ自然排便に繋げていけるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤や季節事にしょうぶ湯やゆず湯などを行い入浴が楽しめるように行っている。また、一人ひとりのタイミングが合うように声掛けをし気分転換が出来るよう支援している	1日3人の方の入浴を介助し、週2回を基本としているが、希望者には柔軟に対応している。足浴器があり、必要な方には毎夕支援する。拒否傾向の方には無理強いをせず、本人の思いに沿った支援を行っている。軟膏塗布利用者の一覧表を掲示し、間違わないように配慮している。着替えは、職員と一緒に用意している。1ユニットに2つの浴室を配置し、感染予防等にも配慮できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時にご本人様の馴染みの品を持参して頂き、ゆっくりリラックスできる環境作りに努めご利用者様は自由に居室と共有スペースが行き来し安心できるように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴・内服薬の用法について処方箋等で全職員が情報共有・理解し誤薬のない様にマニュアルに沿った支援を行っている。また2人体制でのチェックを行う際日付記入・飲み忘れ防止に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様一人ひとりの得意な事や性格を見極め日々の生活の中で楽しみながら行える役割をできるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス流行前はご家族様のご協力で購入物や外食、美容室、法事、お墓参りなどに出かけました。また、地域のイベントや市役所主催のカフェなどにも出かけていました	以前は計画的、またはお天気や体調を見ながら突発的に外出をしていたが、コロナ禍の現在はホーム敷地内を散歩したり、芝の上を歩いたり、ベンチで外気浴を行っている。リビングにしながら花見気分を満喫できるように、YouTubeなどを利用する取り組みも行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様が持参している方やご家族様が管理されている方がおり入居時にご本人様・ご家族様と相談をして決めている。ご本人様より必要な依頼があった際にはその都度、ご家族様と相談をしながら支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や知人との繋がりが途絶えぬ様、ご家族様には施設の電話を使用してお話をされたり知人の方とのお話をされたりしています。手紙が届いた際にはご本人様にお渡しし、字が小さくて読めない際には職員が代読し、手紙を出す際は職員が預かりポスト投函を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は居心地良く過ごせる様清潔を保ち匂いや温度調整に気を配り対応している。また、季節を感じられる様ご利用様と一緒に掲示物の作成を行い飾り付けを行っている	食事スペースとは別にある広いリビングと和室は、ユニットによって趣が違い个性的である。廊下には、利用者の作品やイベント時の写真が掲示され、思い出を楽しむことができる。長い廊下は歩行訓練にも利用されている。洗濯物を干したり、たたんだり、午前午後の体操、脳トレをしたり、職員も一緒に会話しながら、利用者が笑っていられるように支援している。コロナ感染対策のため、ユニット間の交流は中止している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用様が共有空間と居室・玄関などで自由にゆっくりと過ごせる様にソファーやベンチなどを設置し、仲の良い気の合う人と談笑したりし思い思い過ごされています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、居室の入り口にご本人様の写真(ご家族様の了承を得て)を貼り混乱を防いでいる。また、ご本人様・ご家族様より生活習慣を聞き取りを十分に行い使い慣れたものを持参して頂き家具の配置や安全に配慮し居心地良く過ごして頂ける様にしています	居室に洗面台、クローゼット、ロッカー、物置台、冷蔵庫が備付けになっており、入り口からベッドが少し隠れるような配置になっている。写真や作品、カレンダー、鏡台、椅子などが置かれ、自宅にいた時と同じような空間に配慮した、思い思いの部屋づくりとなっている。以前はこたつに入っていた方もいたとのこと。仏壇を置いている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間には障害となるものが無く安全に自由に過ごせる様にしている。ご利用様が出来ることは出来るだけご自分で行って頂けるよう支援している		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームエクセレントホーム なごみ

目標達成計画

作成日: 2020年12月30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	2か月に1度、運営推進会議を開催しているが、報告・意見交換、雑談で終わることが多い。	サービス向上に生かしていけるよう、より多くの人に参加していただき結果を出していく。	より多くの方の参加意欲を高めていけるよう、興味・関心のあるテーマに沿った資料提供ができるよう取り組んでいく。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。